

WiSP部 役員  
久世 妙

# WiSP部の部屋

(女子部の部屋 改題)

こんにちは、Wisp(女性メンバーの集まり)役員の久世です。今回は現場での経験を通じて学んだことを皆様と共有したいと思い書かせていただきます。

## 初めての買主側 インスペクションでの気づき

先日の依頼は若いご夫婦の購入前のインスペクションでした。築30年の中古住宅で、まず購入して良いかの判断材料と購入後にかかってくるであろう修繕箇所等を知りたいという内容でした。

40坪くらいの2階戸建て、屋根裏、床下チェック込みで私一人がインスペクションに当たらせていただきました。

今回のご依頼の背景に、「家のことで相談できる人と繋がりたい」というお客様の気持ちを感じました。今まで売主さん側のインスペクションが主だったので、私にとって新しい気づきでした。

## 診断士の役割と責任

今回のことも踏まえて、日本ホームインスペクターズ協会を通じ、多くの先輩診断士のお仕事を見学させていただいた中で感じたのは、報告書を作成した後からが本当の意味で、お客様との、スタート地点ということでした。

ここで私が思ったことは、住宅診断士の役割として、家が長い時間をかけて熟成されるように、お客様と一緒に家を育てていくこともできる。

古くなれば一般的には経年劣化と言われますが、時間を重ねることで快適さや価値が向上するようなサポートの提供ができるのではないかと。

住宅診断を受けたお客様は家の現状を把握できたばかり、どうやって家を維持し、快適に暮らしていくかという新たな課題が始まります。

診断士は、まるでマラソンの伴走者のように、長期的にお客さまに寄り添い、サポートしていくことが求められているのではないかと。

具体的には、「何年後には屋根の修繕を考えた方が良い」や「こういう使い方をすると家がもっと丈夫に長持ちする」など、お客様のライフスタイルに合わせたアドバイスによって家の価値を維持しながら、快適に過ごすことができるようになり、私たち診断士も息の長いお客様とのお付き合いが仕事にも活かされるのではないのでしょうか？

## まとめ

このコラムを通じて、新米診断士としての視点から、住宅診断士の役割や責任、そしてお客様との関わり方について共有させていただきました。これからも現場での学びや発見を皆様と共有し、一緒に日本の家の価値を育て、より良い住宅診断士を目指し協会を盛り上げていければ幸いです。



NEXT ▶▶▶ No.9  
熊谷 一子さん